

社会的孤立と児童虐待防止プロジェクト

プレイパークで つながる 地域と子どもたち



【目次】

- ① はじめに 2P
- ② プロジェクト概要 2P
- ③ プロジェクトをふりかえって
 - ① 参加者の声を聞きました! 3P
 - ② プロジェクトに参加してみて(取材記録から) 4P
 - ③ 子育て中の保護者に聞いてみました(ヒアリングの記録から) 4P
 - ④ プレイパーク世話人の声 5P
- ④ 提言 6P
「身近な場所で人と人が出会い、交流することの大切さ」
- ⑤ 特別寄稿 近藤 卓 氏 7P
「共有体験が生まれる場～今まさに必要な感情の共有～」

裏表紙 プレイパークマップ(案内)



特定非営利活動法人
横浜プレイパークを創るネットワーク

実施団体



よこはまユース



A family company
at work for a better world

支援団体

1.はじめに

コロナ禍で人との接触や行動が制限されたことで、人とつながれる身近な場の重要性を実感することが多くなってきました。日常生活をおくる中で、何か新しいことを始めたいときや困り事を解決したいときなど、様々な場面において気軽に相談したり、自分の考えを確かめたりできる身近な場があることは大切です。

地域に目を向けてみると横浜市内にも人と繋がる身近な場所が多数存在します。そのひとつに、“プレイパーク”という木登り・ターザンロープ・泥遊びなど子どもが自由に遊べる冒険遊び場が存在します。誰でも遊べるプレイパークは、子どもから大人まで多世代の人たちで賑わっています。

2021年5月～7月の3か月間で3万人を超えるプレイパーク利用者がいました。その中には、プロジェクトのチラシを見てはじめてプレイパークの存在を知り、遊びに来た親子も多かったようです。公園での気軽なおしゃべり、子どもの笑い声を聞く、話を聴いてもらうことなど、コロナ禍では失われがちな日常の他愛もない関わりが、いかに大切だったのかをプロジェクトを通して改めて実感しました。この報告書を手にとっていただいた方が、人や地域とつながることの必要性と気持ちや体験を共有することの大切さに気づき、近くにいる人を誘ってプレイパークなど身近な場にお出かけいただくきっかけになりましたら幸いです。

このプロジェクトをご支援いただいたSCジョンソン株式会社様、プロジェクト協働団体の横浜にプレイパークをつくろうネットワーク様、ご参加いただいた皆様に感謝を込めて、この報告書をお届けいたします。

公益財団法人よこはまユース プロジェクトメンバー 一同

2.プロジェクト概要

■プロジェクト名:社会的孤立と児童虐待防止プロジェクト

■趣旨

コロナ禍によって人との交流機会が減り、社会的孤立が顕在化しています。社会的孤立は児童虐待が起こりやすい状況を生むため、親が気軽に相談ができる環境を、身近な地域に増やしていくことが必要です。

本プロジェクトでは、SCジョンソン株式会社の助成を受け、公益財団法人よこはまユースとNPO横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(YPCN)が連携し、横浜市内の「プレイパーク」で、孤立しがちな子育て世代の親や子どもが、「遊び場」を通してつながり、交流しながら相談できる環境づくりを行うことで、子育て世代の親子の社会的孤立防止に取り組みました。

■取組内容

- ①プロジェクト期間中に開催されたプレイパークに相談員を派遣し、プレイパークに遊びにくる親や子どもの相談に対応しました。
- ②チラシ、WEBページ、Twitterアカウントを作成し、プロジェクトの広報啓発を行いました。
- ③プロジェクト終了後もプレイパークが身近な相談の場としての機能を維持できるように、プレイパークの世話人・プレイリーダー等を対象に相談研修を実施しました。

■期間:2021年5月1日～2021年7月31日 ■回数:186回 ■場所:横浜市内18区23か所のプレイパーク

■主な実績

- 参加人数:30,300人
- 相談記録件数:1,515件(目標1800件) 達成度:84.1%
- 新規利用率:28%(目標20%)※サンプル調査(6日間613人中、新規利用者118人)より
- 利用者満足度:89%(目標80%)※サンプル調査(3日間63人、満足回答56人)より
- 広報啓発:チラシ6000枚250か所配布、WEBページ作成、Twitterアカウント開設
- 相談員研修:1回実施(6月18日)

■連携団体:横浜にプレイパークをつくろうネットワーク(YPCN)

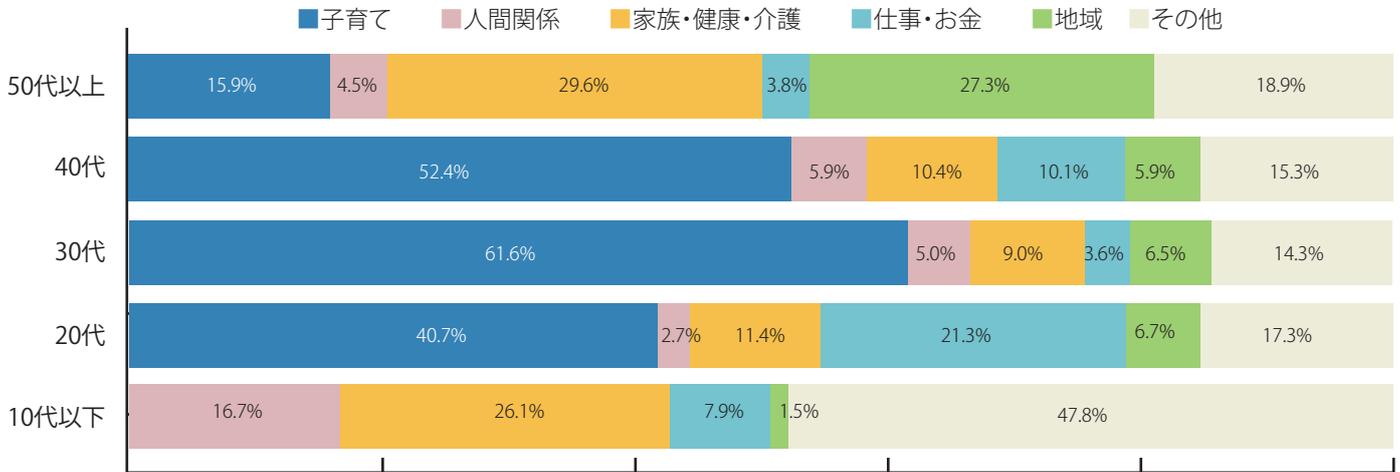
■助成団体:SCジョンソン株式会社



3. プロジェクトをふりかえって

①参加者の声を聞きました

プレイパークには乳幼児から高齢者までさまざまな年代の方が遊びに来ていました。その時に交わした会話を年代別に整理してみると次のような結果になりました。



■ 子育ての話題(20代~40代に多い)

- ・プレイパークには育児世代が多く集まっているので情報交換ができる場になっている。(20代)
- ・コロナ禍ですっと家にいると息が詰まり怒鳴ってばかり。プレイパークに来て気分が晴れた。(30代)
- ・プレイパークに来ると子育ての話を聞いてもらえて共感してくれるので安心する。(40代)

■ 人間関係の話題(10代以下に多い)

- ・友達とケンカをしたけど、仲直りすることができた。(10代)
- ・引越してきたばかりで、ママ友がない。知り合いができたらと思っている。(20代)

■ 家族・健康・介護の話題(10代以下、50代以上に多い)

- ・親にあれこれ言われるので面倒。家に帰りたくない。(10代)
- ・仕事や介護、子育てが中心で自身のケアが後回しになっている。(50代)

■ 仕事・お金の話題(20代に多い)

- ・仕事が上手いかず、プレイリーダーに相談した。話せる人がいるのが良かった。(20代)
- ・給料は上がらないのに、年々出費は増えていて将来が不安。(40代)

■ 地域に関する話題(50代以上に多い)

- ・留学生(大学)が家にこもっていて、日本人と接する機会がない(40代)
- ・プレイパークの場が地域のコミュニティになっていて素晴らしい(50代)

■ その他の話題

- ・外国の方と地域の買い物情報について話をした。野菜の高騰など(30代)
- ・リモート授業と対面授業の良さ悪しについて(20代)
- ・子どもの頃からプレイパークで色々な大人と話す機会があり、育てられたという感覚がある。色々な目線でたくさんのことを教えてもらった。そのことを今度は誰かに伝えたい。(10代)



話題から感じたこと

20代~40代は「子育て」に関する話題が多く、10代以下は友人や親など身近な人間関係に関すること、50代以上は健康・介護、地域に関する話題になっていました。また、20代では仕事・お金についても話題になっていました。

「子育て」の話題では、「情報交換ができる」「話を聞いてもらえる」などプレイパークを人とのコミュニケーションの場と感じている人が多く、「プレイパークの人」というちょうど良い距離感が、年代を問わず、安心して話せる対話の場を生んでいるのを感じました。

②プロジェクトに参加してみても(取材記録から)

プロジェクトに参加している23カ所のプレイパークを取材しました。

よこはまユース職員から見たプロジェクトやプレイパークの魅力を紹介します。

- このプロジェクトがきっかけで、悩みを相談する保護者や初めてプレイパークに来た親子にたくさん出会いました。他愛もない話をきっかけに育児等の情報交換や悩みを相談する場になっていると感じました。また、世話人やプレイリーダーによる気さくな声掛けが、参加者に「安心感」を与えているのだと感じました。
- プレイパークごとに遊べる内容やプレイパークを見守る世話人の思いにそれぞれ個性があり面白いと思いました。市内に25カ所あるので、自分にあったプレイパークや世話人・プレイリーダーを選べるのも魅力的だと思います。
- コロナ禍以前は、子ども食堂のように大鍋料理を作り参加者みんなで食べていたそうです。プレイパークや子ども食堂のように多世代の人々が繋がれる場が、地域に広がっていくことを期待したいです。
- プロジェクトの取材を通じて、プレイパークを存続させるために世話人の方々が、地域との関係づくりや自身のスキルアップ、世話人集めや資金確保など様々な取り組みを「ボランティア」で行っていることに驚きました。また、その苦勞を仲間とともに楽しみながら取り組んでいる姿にも心を打たれました。人との繋がりの中で色々な課題を解決していく姿勢や世話人の雰囲気「誰でも来て良い場所」プレイパークの魅力に繋がっているのだと感じました。

③子育て中の保護者に聞いてみました(ヒアリングの記録から)

取材を通じて出会った保護者の中には、コロナ禍において「孤立」を感じているという人もいました。後日、プレイパークに来ていた保護者に集まってもらい、「子育て中の孤立」「地域への期待」について聞いてみました。

【ヒアリング内容】

- ①子育ての不安や生活の中で感じる不安について、日頃どのような方法で解消していますか？
- ②地域の施設や公園などを利用したことがありますか？
利用したことがある方は、そこでのエピソードを教えてください。

【ヒアリング結果】

- 子育て中に孤立を感じたことがある保護者は多く、子育ての不安を相談できる・わかちあえる(共有できる)仲間がいないなど、他者や社会とのつながりを感じられない時が多くあった。
- 不安の解消は、母親つながり(ママ友)など身近なネットワークのほか、公園や子育て支援拠点など地域資源で出会った仲間と話すことで解消している保護者が多かった。
- 子育て支援拠点や地区センター、公園で「つながりができた」と回答している保護者が多かった。
- 一方、プレイパークのような多様な人が過ごすオープンな場が、しがらみを感じずに心身ともに解放されることがあると感じることもあり、気分や状況によって選択できる環境が地域の中にあればよいと感じている。
- 制約が少なく、心身ともに伸び伸びと遊ぶことができるプレイパークへの期待は大きい。本プロジェクトで初めて知った・訪れた保護者もあり「もっと多くの人に知られてほしい」という声があった。
- プレイパークにスタッフがいることで「行動を見守ってもらっている・承認されている」と感じられ、子どもの言動に対して周囲に気を遣ったり萎縮したりすることがなく、親も安心して楽しめると感じている。



④プレイパーク世話人の声

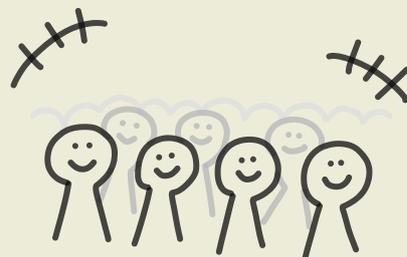
プレイパークには、自ら責任を持って運営を担っている「世話人」と言われる地域住民の方々がいます。本プロジェクトをプレイパークの運営者側の視点でふりかえてもらいました。

■プレイパーク世話人Aさん

プレイパークは子どもたちのための野外の遊び場で、禁止事項を極力なくして少しでも自由に遊べるようにしています。赤ちゃんからお年寄り、だれでも参加できます。地域の有志が運営していますが、利用者も一緒につくっている場です。コロナ禍で育児をしている親の社会的孤立や児童虐待が増加していると危惧されています。今回、プロジェクトに参加し、私たちの活動を考えました。

<参加したスタッフの感想>

- 報告をするところがあるということで、声かけのきっかけやタイミングを意識するようになった。特に、初めて来たママ・パパたちに以前より声かけをできた。
- 今まで苦手としていた同世代以外の人との会話を意識した。悩み事を聞くことだけでも孤独感を軽くすることに協力できたと思う。
- 参加者の居場所となっていることが感じられ、プレイパークの存在意義を改めて確認できた。
- プレイパークに来ると、大人も気持ちがオープンになっていると感じた。良い気分転換の場となっていると感じた。
- みんなの居場所をつくろうとボランティア活動をしているが、私の居場所がここにあると思った。



日々の活動をふりかえることで、私たちは地域で活動するプレイパークの価値を再確認できました。また、このプレイパークだけでは解決できない問題もありますので、小中学校・児童相談所などと連携してゆくことも重要と考えます。

新型コロナウイルスのまん延防止のため、去年は開催自粛を求められました。再開後は健康観察・手指消毒剤の用意・飲食禁止など以前よりも活動内容に制限ができました。活動の継続に不安を覚えることもあります。しかし今回、プレイパークが地域にあることの意義を評価していただき、遊び場・居場所・つながり交流する場としての機能を一層発揮することができました。

■プレイパーク世話人Bさん

プロジェクトへ参加したことで、来園した人と交わした会話を毎回スタッフ間で振り返るようになりました。全員で振り返ることで、私たちが「子育て支援者」であり「地域の支え隊」であることを実感することができました。さらに、場に立つスタッフがそれぞれ同じ想いで関わっていたことも分かり、プレイパークに関わることの醍醐味を全スタッフが感じる事ができたと思います。

来園者との会話では、小さな子どもがいる母親から「子どもが小さくて公園では遊びにくい」「(コロナ禍のため)大人と話すことがない日もある」と聞くこともあり、コロナ禍によって社会から孤立しがちな人が多くなっているように感じました。そして、プレイパークで過ごした後に「今日は親子でたくさん笑った一日だった」「母親だけど“ひとりの人”として受け入れてもらえたように感じた」などの言葉を聞き、プレイパークのような場の必要性を改めて感じる事ができました。

『相談』というほどの看板はありませんが、プレイパークは常に地域の大人がいて、ゆるくつながっている場だからこそできる他愛のない会話が生まれます。そしてそこからもらえるたくさんの「だいじょうぶ」という言葉と笑顔で癒されていく小さな輪こそ、プレイパークが大切にしていることです。“ひとりでの子育てよりみんなで育ちあう子育てを!”とっています。



4. 提言～身近な場所で人と人が出会い、交流することの大切さ～

本プロジェクトの「ふりかえり」から

プレイパークの取材やヒアリングで出会った人たちの多くは、昨年から続くコロナ禍において「この先どうなるんだろう」「外で子どもを遊ばせてもよいのだろうか」という不安を感じていました。特に、子育て世代では「ずっと子どもと家にいて、大人と話さない日が続き不安だった」と、孤立を感じる人もいたようです。

「誰かに聞いてもらいたい」「誰かと思いを共有したい」「他人と何気ない話をするだけでも社会と繋がっている気持ちになる」と考える一方で、不安や悩みを「相談機関に行くには少し大げさかもしれない」と、話を聞いた保護者は言っていました。このことは、世代や置かれている環境に限らず、多くの人を感じることでと考えます。いま、改めて必要なのは「ゆるやかにつながることができる場が身近にあること」ではないでしょうか。

今回、SCジョンソン株式会社様のご支援のもと“地域にある身近な社会資源”かつ、コロナ禍を踏まえ“オープンなスペース”であるプレイパークが持つ役割や力について、YPCNIにご協力いただき「社会的孤立予防」という観点から考えてみました。何気ない会話や聞き取りを行う中で、プレイパークの「誰が来ても良い」というオープンなメッセージは、誰もが心身ともに安心して過ごせるオープンな場であることがわかりました。

来る人を拒まず、色々な世代が来ていて、子育ての仲間や先輩がいて、時には相談もできるスタッフがいるけれど「つながりを強要されない」プレイパークは、小さな子どもから高齢者までが“居ることができる地域資源”であり、前述した“ゆるやかなつながりを生む場”でした。

コロナ禍で、出会う・出かけることが難しくなっています。プレイパークのような「ゆるやかで、気軽な」場が身近な地域に点在することが、孤立化を防ぐ手段となり得ると考えます。



5. 特別寄稿「共有体験が生まれる場～今まさに必要な感情の共有～」

人は人と「関わる」ことで、生きていくし成長していくということについて、どなたも異論はないと思います。しかし、「関わる」とはどのようなことなのでしょう。このことについて、改めて考えてみたいと思います。

「関わる」ためには、「向き合う」と「寄り添う」という二つの方法があります。だから、子どもと向き合うことが大切だと言われますし、子どもと寄り添うことも大切だと言われるのです。

「向き合う」時には、相手と顔を合わせて、視線が交差します。お互いの存在を確認し、互いの気持ちを視線や表情から読み取ります。大人と子どもの関係で言えば、「向き合っ」て笑顔で子どもを褒めたり、目を釣り上げて子どもを叱ったりします。褒められると、子どもの心の中では「すごい自分(社会的自尊感情)」が高まり、叱られればその逆になります。

「寄り添う」というのは「並ぶ」と言い換えることもできます。二人が「並ぶ」関係にあるとき、二人は同じ方向を見て、同じ世界を共有しています。きれいな夕焼けを見ているかもしれません。森の緑や足元の小さな野の花を見ているかもしれません。

そして、二人は「ああ、きれいだな」「かわいいな」と気持ちを共有し、自分は一人ではないという思いを共有します。こうした共有体験を通して、「自分の感じ方は間違っていない」「自分は一人ではない」「自分は自分のままでいい」という気持ち「ありのままの自分(基本的自尊感情)」が育っていきます。

向き合ってお互いの顔を見て視線を合わせることは、互いの存在や、気持ちを確認するために必要なことです。しかし、もっと大切なことは、そうして確認できた人と、身の回りにある何気ない物や出来事に心が動く時間を持つことです。こうした「感情の共有」を繰り返しながら、少しずつ心が豊かに育ち、心の基盤がしっかりと支えられていきます。

今、まさに必要なことは、褒めたり認めたりして自信を持たせることではなく、「感情の共有」によって自分は一人ではない、自分は自分のままでいいという「ありのままの自分(基本的自尊感情)」を育てることなのです。

日常生活の中で、家族や親子で、そして身近な知り合いや顔見知りの人と、何気ない「感情の共有」ができる場所は、とても貴重なものだと思います。ちょっと立ち止まって、ふと空を見上げられる場所、なんとなく足元の草花に目を向けて立ち止まれる場所があればいいのです。

同じように誰かが立ち止まって、空を見上げるかもしれません。足元に目をやるかもしれません。その時、自分は一人ではないという思いが、あたたかく心を満たしてくれることでしょう。

近藤 卓

健康教育学者・日本ウェルネススポーツ大学教授・日本のいのちの教育学会理事長



横浜市内のプレイパークMAP

横浜市内には現在*25のプレイパークがあります。詳しくはHPをご覧ください。*2021年10月



あざみ野西公園
プレイパーク

青葉区

新石川公園
プレイパーク

青葉区

綱ヶ崎公園
プレイパーク

港北区

日吉ろっこう
プレイパーク

港北区

しらとり台公園
プレイパーク

青葉区

まんまる
プレイパーク

都筑区

太尾公園つちのこ
プレイパーク

港北区

つるみ
プレイパーク

鶴見区

三保ねんじゅ坂
プレイパーク

緑区

片倉うさぎ山
プレイパーク

神奈川区

白幡の森
プレイパーク

神奈川区

神奈川公園きらきら
プレイパーク

神奈川区

若葉台
プレイパーク

旭区

あさひプレイパーク
みんなの広場

旭区

浅間台みはらし
プレイパーク

西区

まかどの森
プレイパーク

中区

瀬谷南台こどものもり
プレイパーク

瀬谷区

ほどがやわくわく
プレイパーク

保土ヶ谷区

ぐみょうじ
プレイパーク

南区

あそびの広場 俣野公園
プレイパーク

戸塚区

港南台生き生き
プレイパーク

港南区

洋光台
プレイパーク

磯子区

ゆめひろば金井公園
プレイパーク

栄区

桂山
プレイパーク

栄区

金沢はれはれ
プレイパーク

金沢区

